

(別紙 2 - 1)

2024 年 7 月 19 日

二本松市議会議長 様

会 派 名 真誠会

代表者名 佐藤 有



視察・研修報告書

当会派において、下記により視察（研修）を（に）実施（参加）しましたので報告いたします。

記

1 期 間 2024 年 7 月 10 日（水）～ 7 月 11 日（木）

2 参加者 ① 佐藤 有 ② 堀籠 新一
③ 佐久間 好夫 ④ 坂本 和広
⑤ 高宮 正彦 ⑥

3 視察（開催）地及び視察（研修）内容

東京駅新宿区西早稲田 1 丁目 20-14

早稲田大学国際会議場 井深大記念ホール

全国地方議会サミット 2024

非常事態への備え これからの議会



(別紙2-2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 真 誠 会
氏 名 江 藤 有

- 月 日 天 皇 紀 元 26 年 7 月 10 日 (～ 11 日)
- 場 所 東京都早稲田大学国際会議場井深大記念ホール
- 内 容 全国地方議会サミット 2024
「非常事態への備え、これからの議会」
- 視察・研修の感想

全国各自治体より 1,000 人以上の参加者により、震災・災害のあった自治体からの報告と自治体の役割、その対応等、及び記念の体験した事を、ディスカッションも含め報告発表があり、有意義な研修となりました。

- 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

議会改革についてもパネルディスカッションに於いて
「議選監査委員の活性化と議会についての意見交換あり」

本議会での特別委員会では議選の監査委員は必要ないとの結論であり、自治省で選択制を推進しており、地方自治体にはそれぞれの中情、地域性や人口、事務量の違いもあり、全国では市町村の廃止以上の、25市町村です。やはり議選監査委員の必要性が高い予算や決算、財務状況から見て、取組の事務の適法性、能率性の確保を図る観点から、職員と一体取り組む議選監査委員の必要性が強く感じられました。

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 名 真 誠 会
会 員 名 堀 籠 新 一

視 察 日 2024 年 7 月 10 日 (水) ～ 7 月 11 日 (木)

視 察 先 早稲田大学国際会議場井深大記念ホール

視察内容 全国地方議会サミット 2024 「非常事態への備え これからの議会」

視察の感想

Day 1 7 月 10 日 (水)

開会後全国市議会議長の坊 恭寿議長が来場され挨拶がありました。

全国から約 300 議会からの参加があったとの報告がありました。

最初の講演は早稲田大学名誉教授北川 正恭氏の基調講演でした。ほとんどの自治体執行部の思いとして、「議会はうるさい」「余計なことを言う」などと思っているとの事である。しかし二元代表制であっても、議会は民意の反映を受けて、意見・提言しながらチェック機能を発揮するものであるが、そのように思っているのかと感じました。

次は「能登半島地震被災地の議会からの報告」で輪島、珠洲、能登議会の議長より報告とパネルディスカッションがあり全国に対して感謝の言葉がありました。半年が過ぎましたが、まだまだ復旧されてない、報道も少なくなってきたとのことでした。災害を経験したことでの議会活動の改善が必要、防災計画の見直し、課題は優先的に改善が必要、DX 対応では電波の関係などなど!!大変とのこと。

私達は未曾有の東日本大震災を経験しており、相次ぐ災害を経験しているため、地震はいつか来るのではなく絶対来るということを常に考えておく事である。

Day 2 7 月 11 日 (木)

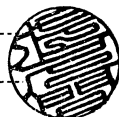
「非常事態への備えと議会の対応・役割」では、法政大学総長 廣瀬 克哉氏の講演でした。備えがないと非常時には何事にも役立たないとのことで、議会の役割として、発災期→情報収集機能 (3 日間) 応急期→課題整理機能 (4 日間) 復旧期→議論の場としての機能 (4 日間～1 週間) で、特に発災期では行政の足を引っ張らないことである。パネルディスカッションでは「東日本大震災の経験をふまえた災害対応」として久慈市議会議長、「大規模復興と議会のあり方」として陸前高田市元議長、「住民避難・離散と自治体・議会の活動」では双葉町長の災害対応と現在の状況についての報告を熱心に聞いていました。我が二本松市議会は、あらゆる災害を経験したことで、災害時対応として業務継続計画 (議会 BCP) が平成 29 年に策定されております。今後の災害対応では、福島県として一自治体に必ずトイレハウスやトイレトレーラを設置し、有事に共有できる対応が必要であると思う。

(別紙 1—2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 真 誠 会

氏 名 佐久間 好 夫



○月 日 令和6年7月10～11日(1泊2日)

○場 所 東京都 (早稲田大学 国際会議場井深大記念ホール)

○内 容

- ・期 日 7月10日(水)午後1時～午後5時30分
- ・主 催 ローカル・マニフェスト推進連盟
- ・参 加 者 都道府県首長・市議会議員(総人数≒300人)

◎第1日目(7月10日)

- ・基調講演「生活を支える強い地域を議会が作る」
講師 北 川 正 恭 (早稲田大学名誉教授)

- ・パネルディスカッション「能登半島地震被災地の議会からの報告」・「熊本地震の体験と自治体間支援の現場について」

輪島市議会議員元議長 椿原正洋・珠洲市市議会議員 泉谷満寿裕
能登町議会議員 金七祐太郎 ・熊本市長 大西一史

- ◎ 能登半島の震災地の議会からの活動について、対策本部設置から県や国への救済要望及び、全国から派遣された職員による被災証明書発行まで、それぞれの議長や市長から実体験の、災害対応へのDX活用事例や、第1は人命救助の対応とインフラの早期 対応等について、実体験した内容と反省等を含め話された。

※近年全国的に災害発生は何時発生してもおかしくない状況になっており、実質人間が災害を防げるわけではないので、まずは人命救助が第一で、避難における生活の対応、更にはインフラ整備早期実現等であり、今回の能登半島は基幹路線が金沢市を拠点に設置されており、迂回ができない状況だった事や医院が少なく金沢市迄の搬送となり、被害者の増につながっておるようだ。

- ・講演「東日本大震災の経験から」元総務大臣 片山善博 氏より当時の災害状況等の行動等について、講演あり。

◎第2日目(7月11日)

- ・講演「非常事態への備えと議会の対応・役割」について、法政大学総長 廣瀬克哉 氏の災害対策本部の設置から、それぞれの委員会ごとの行動についての議員間の連携等について話され、その後、パネルディスカッションが「東日本大震災の経験を踏まえた防災対応」や「大規模復興と議会の在り方」及び「住民避難・離散と自治体・議会の活動」について、久慈市議会議長 濱欠明宏 氏、陸前高田市議会元議長 福田利喜 氏、双葉町長 伊澤史郎 氏の経験からの苦労話等があった。
- ・議会選出監査委員活性化と議会・監査委員会事務局との連携」について、大正大学教授 江藤俊昭 氏、可児市監査委員会事務局長 平田祐二 氏、あきる野市議会議員 議選監査委員 元議長 子龍敏人 氏、可児市市議会議員 元議長 川上文浩 氏によるパネルディスカッション
 - ※ 議選監査委員の役割は、地方公共団体の財務の執行や経営に係る管理の監査を行わなければならないとされているが、行政事務一般についてもでき、これらの事務の適法性や能率性の確保を図る観点から定期監査・随時監査・行政監査と「例月出納検査・決算審査・公金の収納や支払事務に関する監査」等を行っている。
 - ※ 平成29年の地方自治法改正より議会選出の監査委員が選択制となり、その結果多くの議会で制度維持が決められたが、令和4年4月迄で、議選廃止した市は全国815市のうち25市となっております。
なお、廃止すべきと訴える方々には、「ぜひ静かに見守っていただきたい」とのこと。地方自治体にはそれぞれの事情や事務量の違いがあり、全てを一つにして制度廃止論を主張する事は問題があり、自治体で十分検討検証してから廃止すべき、なぜなら監査委員の評価(監査の品質評価)を受けていないから。

◎ 感想

今回の研修では、災害避難に対策として最低3日分の食事や場所選定及び、特にトイレの必要性が強く設置なり対応できる態勢づくりが必要である。

なお、災害は人間対応は難しいので、その対応がいかに早くできるかだ。人災が発生しないよう対応が必要であり、避難所での病人や高齢者の対応についても効率的に対応が必要である。

また、議選監査委員については上記のとおり。

以 上

令和 5 年度自治創造学会研修受講報告書

議席番号 5 氏 名 坂本和広

○ 開催日時 令和 6 年 7 月 10 日 (水) 13 時～16:20

令和 6 年 7 月 11 日 (水) 10 時～14:30

○ 演 題 「非常事態への備え」

～これからの議会～

○ 会 場 早稲田大学国際会議井深大記念ホール

○ 講 師 北川正恭 大西一史 泉谷満寿裕 廣瀬克哉 椿原正洋 番匠雅典
金七祐太郎 臼井裕一郎 円城寺雄介 片山善博 濱欠明宏 福田利喜 伊澤史朗
橋本大也 江藤俊昭 子籠敏人 川上史浩 平田祐二 土川希美枝 中村健

○ 研修の感想

今回の研修では能登半島地震における被害の状況を輪島市・珠洲市・能登町の市長さんや町長さんにお聞きし大変な現状と今後の対策について伺いました。なかなか復旧が進まない状況もありながら復興に尽力されている状況がわかりました。

また、熊本地震により大きく被害を受けた熊本市の大西市長からのお話では職員さんの派遣の延長の件を含めて対向支援の必要性についての講演を頂きました。

なお、防災 DX についての講話ではドローンの活用により道路や傾斜地の被害の確認や通行が可能なルートを確認する作業など多岐にわたって災害現場での活用方法が紹介され今後の防災対策に役に立つ講話を頂きました。まずは日本国内どこでも被災する可能性があるため自治体間での連携を密にして、被災経験のある自治体を核として支え合う体制構築が必要と感じました。

(別紙 2 - 2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 真誠会

氏 名 高宮 正彦

○ 月 日 2024 年 7 月 10 日 (～ 11 日)

○ 場 所 早稲田大学国際会議場 井深大記念ホール

○ 内 容 全国地方議会サミット 2024

非常事態への備え これからの議会

○ 視察・研修の感想

能登半島地震被災地の議員の方々から当時の様子と現状についてのお話しをお聞きしました。

震災後半年以上経過するもまだまだ問題がたくさん有り各住民の皆さんと解決していかなければならない。また予算等も解決していかなければならないようです
応援に来られていた職員等も任期が終わり帰られたようですが地元職員ではまだ
手が足りていないそうです。との事でした

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

今後どの様な災害に見舞われるか解らない時代になっておりますが避難の際
プライバシーの観点から避難所に行くよりも車による避難が多いとのこと
市としても有事の際の避難所の確保はもちろん車中泊避難者の為の場所の確保
等も考えていかなければならないまた水、簡易トイレなどの防災用品も新しい
製品が多く出ているので何が良いのか考えていかななくてはならないと思う。

視察研修行程表

日次	月 日	行 程
1	7月10日 (水)	【JR東北本線】 二本松駅 — 郡山駅 — 東京駅 — 御茶ノ水駅 — 飯田橋駅 — 早稲田駅 7:59 8:24/ 8:50 10:07/10:25 10:28/10:34 10:38/10:49 10:53 【徒歩】 早稲田大学 — 早稲田駅 — 飯田橋駅 — 秋葉原駅 — 秋葉原(泊) 12:30 18:05 18:09/18:17 18:24 18:31
		【徒歩】 宿泊先 — 秋葉原駅 — 飯田橋駅 — 早稲田駅 — 早稲田大学 — 早稲田駅 8:50 9:07 9:14/9:23 9:23 9:30/16:00 16:13 【東京メトロ東西線】 飯田橋駅 — 御茶ノ水駅 — 東京駅 — 郡山駅 — 二本松駅 16:17/16:29 16:33/16:37 16:42/18:00 19:31/19:42 20:05

【宿泊先】

スーパーホテル秋葉原・末広町 tel 03-6848-9000
東京都台東区上野3-2-5

【視察項目】

全国地方議会サミット2024